

私の生きる支えたち

穴戸信子（広島）



私は脳性麻痺という全身性の障害者として生まれ、あつと言う間に74歳のおじいちゃんになつてしましました。私が30歳で同じ障害をもつ女性と結婚し、長女を授かった時に考えられないことに遭遇しました。今年の春に94歳で亡くなつた母親が障害者夫婦故に子どもを産むことに猛反対をしたのです。結局、勘当を強行することとなりました。

難産の末にかわいい赤ちゃんが誕生し、妻と二人で悪戦苦闘の育儿をし、今彼女は看護師として孫娘を育てながら働いています。

勘当を宣言した私の母親は、長女が産まれた途端に豹変しまして、頼みもしないのにデパートで持てない位の買い物をして、毎日のように我が家にやつてきては世話を焼いておりまして、本当に辛せそうでした。そして、7年後には次女を授かって、次女は獣医師として楽しそうに働いています。

孫娘は0歳児保育を受けて育ちましたが、小学生になるまで私の電動車椅子の膝の上に乗つて保育園に通いました。朝夕のこのひとときは、まさに至福の時でした。今彼女は小学5年生となつて、土日にはお泊りに来ててくれて私の世話を焼いています。◆



小さな手を見て

市橋 博

障害者と家族の生活と権利を守る都民連絡会・副会長（東京）

孫は本当に 目に入れても痛くない

春田文夫

日本チャリティプレート協会 会長（東京）



私は脳性麻痺という全身性の障害者として生まれ、あつと言う間に74歳のおじいちゃんになつてしましました。

私が30歳で同じ障害をもつ女性と結婚し、長女を授かった時に考えられないことに遭遇しました。今年の春に94歳で亡くなつた母親が障害者夫婦故に子どもを産むことに猛反対をしたのです。結局、勘当を強行することとなりました。

難産の末にかわいい赤ちゃんが誕生し、妻と二人で悪戦苦闘の育儿をし、今彼女は看護師として孫娘を育てながら働いています。

勘当を宣言した私の母親は、長女が産まれた途端に豹変しまして、頼みもしないのにデパートで持てない位の買い物をして、毎日のように我が家にやつてきては世話を焼いておりまして、本当に辛せそうでした。そして、7年後には次女を授かって、次女は獣医師として楽ししそうに働いています。

孫娘は0歳児保育を受けて育ちましたが、小学生になるまで私の電動車椅子の膝の上に乗つて保育園に通いました。朝夕のこのひとときは、まさに至福の時でした。今彼女は小学5年生となつて、土日にはお泊りに来ててくれて私の世話を焼いています。◆



敬して接する一個の人格

浅井基文

元広島平和研究所所長（東京）

高2のミク

私が本誌で孫娘・ミクについて連載した時のミクは小5～6でした。ミクは本当にまだ子どもで、いつも「私の中にスッポリ入り込んで、私の気持ちと溶け合つてくら」心地よさを味わいました。ミクは今高2の女の子です。背丈はあまり変わりませんが、自分で物事を判断し、好みについて妥協せず、しっかりと意思表示します。何よりも感心するのは、他者に対する気遣い(他者感覚)が彼女の思考の中に確実に存在することです。

今日のミクは私にとって「敬して接する一個の人格」です。おじいちゃんとしては正直少し寂しいですが、日本人の「個」の欠落が日本社会の諸問題の根本原因だと感じている私にとって、ミクのこのような成長は実際に頼もしく思われることもあります。

ミクの今日あるのはすべて母親・のりこを見ているからです。私の唯一の不安は、のりこががんばりすぎることです。最近、のりこがMRI検査を受ける羽目になつた時は肝がつぶれました。ミクのためにも、がんばりすぎない生き方を心掛けてほしいということを感じている私です。携帯に写真を取り込み、電車の中でニヤニヤながめています。

がんばりすぎるのりこ

ミクの今日あるのはすべて母親・のりこを見ているからです。私の唯一の不安は、のりこががんばりすぎることです。最近、のりこがMRI検査を受ける羽目になつた時は肝がつぶれました。ミクのためにも、がんばりすぎない生き方を心掛けてほしいということを感じている私です。携帯に写真を取り込み、電車の中でニヤニヤながめています。

今年の5月14日に、初孫が誕生しました。男の子で名前を怜と言います。自分で言うのも変ですが、かわいくてしかたがありません。「落とすといけないから」と抱かせてもらえない私ですが、小さな手が動くのを見るだけで幸せを感じている私です。携帯に写真を取り込み、電車の中でニヤニヤながめています。

土を、空を、水を残す

怜を見つめながら思い浮かんだ歌が、「生きているきみたちが生きて走りまわる土をあなたに残しておいてやれるだろうか父さんは」です。(笠木透『私の子供達へ』)

祖父から、父から、戦争でズタズタにされた国を継ぎ、私もどうにか、こうにかです。そして、息子を、空を、水を残すことができました。福島の痛恨もあり、どうにか、こうにかです。そして、息子創が、怜に土を、空を、水を残すことができるだろうか。今、強引に通されようとしている「戦争法」は、この小さな手に兵器を持たせ、土も、空も、水も破壊するようなことになりうる。

憲法9条を、平和を継ぎ、土を、空を、水を残す、大変な事業なんだ、小さな手を見ながら、あらためて思いました。◆